

# 会誌「分光研究」投稿規定

(改正 平成29年1月23日)

## 1. 総 則

本誌は公益社団法人日本分光学会が発行する隔月刊和英混載誌で、分光光学に関連した諸分野の原著論文、解説記事および学会として必要な記事などを掲載する。会員は、いつでも自由に投稿することができる。原著論文（「報文」および「装置と技術」）以外は、主に編集委員会の依頼により執筆された記事を掲載する。投稿された原稿は、自由投稿による原稿、依頼原稿のいずれについても編集委員会で審議され、掲載の可否の検討をうける。

**1.1** 投稿者は本会会員に限る。ただし、本会が原稿を依頼した場合はこの限りでない。また、共著者は会員である必要はない。

**1.2** 学会では、投稿論文について、いずれも著者が発表に関しその研究機関の了解を得てなされているものとみなす。したがって、投稿論文に関し、著者と研究機関の間に紛争を生じた場合には、著者が全責任を負うものとする。

**1.3** 本誌に掲載された記事の著作権は公益社団法人日本分光学会に属する。著者は著作権移転承諾書を本会に提出しなければならない。著者複数の場合は、著者のうち責任者が承諾書に署名することとする。

**1.4** 図、表、写真などを他の出版物から本誌に転載する場合は、投稿者がそれらの著作権者の承諾を得ている必要がある。転載した図、表、写真などについては、転載したものであることを説明文中に明示し、必要に応じて転載許諾を受けている旨も説明文中に記すこと。また、転載元を説明文中あるいは引用文献として明らかにすること。

## 2. 原稿の種類

(原稿の長さは刷り上がりページ数である)

### 2.1 報 文

**2.1.1** 分光光学に関連した諸分野における基礎あるいは応用に関する原著論文で、その内容が分光学的見地からみて価値があり、有意義なものでなければならない。

**2.1.2** 使用言語は日本語または英語とする。

**2.1.3** 長さに制限はない。

**2.1.4** 著者は「分光研究」に投稿中の論文と同一内容の和文論文または欧文論文を他の原著論文誌に投稿してはならない。また、他の原著論文誌に投稿中の論文を「分光研究」に投稿してはならない。

**2.1.5** 紀要または所内報のような性格の出版物、非原著論文誌に投稿中または掲載済みの論文と重複した内容の論文を投稿しようとするときは、必ずその旨を明記し、原稿の写しまたは別刷を一部添付しなければならない。

### 2.2 装置と技術

**2.2.1** 新しく開発された分光光学上有用な装置あるいは実験技術に関する報告で、実用上価値あるもの、あるいは興味ある内容を持つものを対象とする。

**2.2.2** 2.2.1以外については、報文に準じる。

### 2.3 解説記事、その他

#### 2.3.1 総説

a) 著者自身の研究を中心として、その方面の進歩の状況・現状などをまとめた総説、またはある主題について専門外の会員のために基礎的な説明から始めて、最近のトピックスまでを解説するものである。

b) 文献が整備されていることが望ましい。

c) 長さは図・表を含めて10ページ程度とする。

#### 2.3.2 若手のショートレビュー

a) 若手の研究者が自らの研究成果を中心としてまとめた総説である。

b) 投稿者は原稿受領時点で満36歳未満の本会会員に限る。

c) 著者名は単独とし、投稿に際して共同研究者の同意を得ているものとする。

d) 長さは図・表を含めて6ページ程度とする。

#### 2.3.3 スペクトルギャラリー

a) 研究者自身あるいは研究分野の進展のきっかけとなった印象的なスペクトル（分光学的データ）をもとに、研究や関連の出来事を随想的に述べた文章を掲載する。

b) 長さは図・表を含めて3ページ程度とする。

#### 2.3.4 分光便利帳

a) 新規に開発・改良された実用的な実験技術（実験を進める上でのアイデアや工夫を含む）についての解説である。

b) すでに論文等として発表されている内容でも構わない。

c) 長さは図・表を含めて1ページまたは2ページとする。

#### 2.3.5 技術ノート

a) 分光測定を行う上で有用な技術を基礎から実践までわかりやすく解説したもの。3回程度以内のシリーズにまとめて連載することも可。

b) すでに論文や書籍等として発表されている内容でも構わないが、分光測定に関連した部分を本会会員が理解できる形で記述されることが望ましい。

c) 長さは図・表を含めて6ページ以内とする。

#### 2.3.6 読者の広場

a) 会員の共通の広場として、会員の自由な意見の交換をはかるとともに、本学会の運営などに関する会員の意見、海外だより、帰朝談、研究室だより、会員からの質問に対する回答などを掲載する。

b) 学界における主なニュース、国際会議報告、各種の研究会の成果の報告などをとりあげる。

c) 長さは図・表を含めて1ページまたは2ページとする。

#### 2.3.7 トピックス

a) 分光学に関する内外のニュース、トピックスを紹介する。著者自身の研究成果をとりあげる欄ではない。

b) 長さは図・表を含めて1ページまたは2ページとする。

#### 2.3.8 新製品紹介

a) 賛助会員が、生産または発売している製品で、発売開始から概ね1年以内のものを紹介する欄である。賛助会員のために掲載無料とする。

b) 長さは図・表を含めて1ページ以内とする。

#### 2.3.9 講座

a) 時宜に適した主題について、その基礎をやさしく正確に解説したものを6回程度にまとめて連載する。

b) 1編の長さは、図・表を含めて10ページ程度とする。

#### 2.3.10 新刊紹介

a) 内外の新しい出版物の中で、特に会員の興味をひくと思われるものの簡単な紹介をする。

b) 長さは1ページ以内とする。

#### 2.3.11 博士論文紹介

a) 会員の博士論文の内容について、本人が紹介する。投稿は当該学位取得後1年以内に限る。

b) 長さは図・表を含めて3ページ以内とする。

c) 投稿者は、原稿が確かに本人の博士論文の内容であることを誓約する文書を、原稿とともに提出すること。

#### 2.3.12 学会だより

理事会、委員会、部会、事務局からのお知らせ（会告とすべきものを除く）や活動報告を掲載する。

#### 2.3.13 掲示板

a) 理事会、委員会、部会、事務局からのお知らせ（会告とすべきものを除く）や活動報告を掲載する。

b) 会員に有益と思われる情報（国際会議、研究会、シンポジウム等の情報、人事公募情報、助成金や受賞候補者募集の情報など）を掲載する。

#### 2.3.14 会告

学会から会員への報告事項を掲載する。

## 3. 投 稿

**3.1** 原稿は本投稿規定並びに「投稿の手引き」に従って作成しなければならない。これらに従っていない原稿は作成のし直しを著者に求めることがある。

**3.2** 原稿（図表、写真等を含む）は、電子ファイルとして作成すること。用紙をA4、1ページあたり26字×24行に、上下左のマージンを30 mm以上、右マージンを50 mm以上に設定すること。このフォーマットで作成された原稿およそ

4 ページが刷り上がり 1 ページとなる。なお原稿ファイルの見本を、学会ホームページからダウンロードすることができる。

**3.3** 原稿（図表、写真等を含む）の印刷は、モノクロとなる。特にカラーでの印刷を希望する場合には、その旨を原稿の該当箇所（図表、写真等の原稿）に明記すること。カラー印刷を行う場合には、投稿者に印刷実費（刷り上がりのカラーページ 1 ページあたり 2 万円）を負担していただくので、投稿票（後述）の確認欄にチェックをいれること。

**3.4** 原稿とは別に、投稿情報ファイル（投稿票・著作権移転承諾書・別刷注文票）を作成する。投稿情報ファイルのフォーマットは、学会ホームページからダウンロードすることができる。

**3.5** 投稿者は、投稿情報ファイル（pdf 化してあることが望ましい）および原稿ファイル（本文、図表、著者プロフィール等のすべてを一つの word ファイルにまとめたもの）の二つのファイル（ファイルの大きさ合計の上限値：5 MB）を、電子メールの添付ファイルとして編集委員会（事務局）に提出する。編集委員会（事務局）の電子メールアドレスは、editorial@bunkou.or.jp である。

**3.6** 投稿者は、提出した原稿のファイルを、記事が掲載されるまで手元に保存しなければならない。

**3.7** 以上の方法による投稿が困難な場合（ファイルの大きさが上限値を超える場合を含む）には、編集委員会（事務局）に相談すること。

#### 4. 投稿原稿の取り扱い

**4.1** 編集委員長（事務局）は原稿を受取ったら、電子メールにて著者に受取通知を出す。投稿者は、原稿送信後（送信日を含めて）3 営業日以内に受取通知が届かない場合には、編集委員会（事務局）に問い合わせること。

**4.2** 投稿原稿（依頼により寄稿された原稿を含む）の掲載の可否は、編集委員会が依頼した査読者の意見にもとづいて、編集委員会が決める。

**4.3** 編集委員会は著者に原稿の修正、および掲載区分（報文、装置と技術など）の変更を求めることができる。投稿者は、修正を求められたら、なるべく早く修正稿を提出すること。

**4.4** 修正稿作成時には、編集委員会が修正を要求した箇所以外には、編集委員会の承諾なしに変更を加えてはならない。

**4.5** 英文原稿の場合、編集委員会は著者に英文の修正、または全面的書き直しを求めることができる。この場合、著者の責任において完全な英文にしなければならない。

**4.6** 修正稿には、修正点のまとめ（修正意見に対する回答書、様式自由）を添付すること。修正点のまとめの電子ファイル（word ファイル）および原稿のファイル（word ファイル）の二つのファイル（ファイルの大きさ合計の上限値：5 MB）を、電子メールの添付ファイルとして編集委員会（事務局）に提出する。提出先は、投稿時と同じ。

**4.7** 編集委員会が修正または再考慮を求めた論文を著者に返送したまま 6 ヶ月を経過した場合には、その論文は撤回されたものとみなされる。

**4.8** 印刷用の原稿（特に微妙な仕上がりが要求される図や写真など）を word ファイル以外のファイルあるいはハードコピーで提出することを希望する場合には、編集委員会（事務局）に問い合わせること。提出されたハードコピーは、事前の申し出がない限り返却しない。

**4.9** 著者校正は 1 回行う。この際、著者は手元保存のファイルを用いて校正を行う。この時印刷上の誤り以外の字句の修正、あるいは原稿になかった字句の挿入は原則として認めない。校正刷りは受取後 3 日以内に校正して、速達で返送すること。

#### 5. 別 刷

**5.1** 別刷りの注文は、50部を単位とする。

**5.2** 以下の種類の依頼原稿には、寄稿者の申し出により別刷50部を無料進呈する。（別刷注文票の提出は必要。）ただし、依頼原稿であってもカラーページが含まれる原稿の別刷については、カラー別刷り印刷に関わる実費を負担していただく。カラーページおよび50部を超える分についての料金は、5.4の計算式による。

「総説」、「若手のショートレビュー」、「講座」、「巻頭言」、「分光便利帳」、「読者の広場」、「トピックス」、「新製品紹介」、「新刊紹介」、「技術ノート」、その他の特別原稿

依頼原稿でない場合には、これらの種類の原稿であっても5.4の計算式による別刷料金を負担していただく。ただし、別刷り購入の義務はない。

**5.3** 「報文」および「装置と技術」の著者は、最低50部別刷を購入しなければならない。料金は、5.4の計算式による。

**5.4** 掲載論文の別刷代金の計算式は、以下の通り。

- カラーページを含まない場合（依頼原稿については、50部を超える部分について）

$$(2,000 + 10x)p \text{ 円}$$

$x$  は希望別刷り部数,  $p$  は刷り上りページ数

- カラーページを含む場合

$$\text{依頼原稿でない場合} : (2,000 + 10x) \times (2 \times p_1 + p_2) \text{ 円}$$

$$\text{依頼原稿の場合} : (2,000 + 10x) \times (2 \times p_1 + p_2) - 2500 \times (p_1 + p_2)$$

$x$  は希望別刷り部数,  $p_1, p_2$  はそれぞれカラー刷りおよびカラー刷りでないページの数（いずれも刷り上りページ数）

**5.5** 別刷りに、本誌表紙と同一レイアウト、紙質に論文題名、著者名等を記載した表紙をつけることができる。この別刷表紙の料金は、50部までが20,000円、50部を超える分は50部毎に5,000円である。

## 投稿の手引

### 1. はじめに

この「投稿の手引き」は投稿規定**3.1**により論文等の投稿に当たり原稿作成の指針として設けられたものである。よく読んで、体裁の整った、読みやすく、理解しやすい原稿を作成していただきたい。

### 2. 和文の「報文」および「装置と技術」の書き方

#### 2.1 表題、著者名、研究機関

**2.1.1** 原稿の1ページ目中央に、表題、著者名、研究機関とその所在地を日本語で書く。関連のあるいくつかの論文を同じ表題で発表する場合には、ローマ数字 I, II, III で番号をつける。また、副題をつけてもよい。

**2.1.2** 原稿2ページ目には、1ページに対応する項目の英文を中央に書く。

**2.1.3** **2.1.1**および**2.1.2**で述べた事項を記入する際には、次のことを注意すること。

a) 著者がこの論文の内容についてすでに講演している場合、そのことを必ずしも記載する必要はないが、特に著者が希望する場合には、表題に†などの記号をつけ、そのことを脚注に書く。

b) 表題の英文の冠詞、接続詞、前置詞以外の単語の頭文字は大文字にする。ハイフンでつながれている場合にも、High-Resolution Spectroscopy のように、頭文字を大文字にする。

c) 和文表題中での英文字・略語の使用、および英文表題中での略号の使用を避ける。

#### 2.2 Synopsis

**2.2.1** Synopsis（英文）はその論文の目的・方法・重要な結果などを簡潔明確にあらわすように著者自身が書いた論文要旨である。Synopsisには表題に表わされていることを繰り返す必要はない。

**2.2.2** 「報文」と「装置と技術」には必ず Synopsis をつける。

**2.2.3** Synopsis の用語は英語にかぎる。長さは150語程度までとする。

#### 2.3 Keywords

**2.3.1** 「報文」と「装置と技術」には英語の Keywords をつける。

**2.3.2** 長さは15文字以内で、5語以内程度とする。

#### 2.4 和文要旨

「報文」と「装置と技術」には、和文要旨（200字程度まで）をつける。

#### 2.5 本文

##### 2.5.1 一般的注意

a) 本文は、日本語平仮名まじり、横書きとし、当用漢字、現代かなづかいを用いる。術語は、学会および文部科学省で制定されたもの（たとえば、学術用語集分光学編）を用いることが望ましい。

b) 化合物名は、原則として IUPAC 命名法に従ったものを用いること。ただし、慣用的に用いられている化合物名に関しては、この限りではない。

c) 単位は、SI 単位を用いること。SI 単位に属さない単位を用いる場合には、その定義を明示すること。

d) 物理量の記号や単位は、SI の表記法に従ってそれぞれイタリックと立体で表すこと。

e) 人名、または日本語になりきっていない術語などは、原則として、原つづりで書くか、あるいは、日本語の後

に（ ）内に原つづりを書く。

f) 欧語の原つづりを日本語に混用する時は、なるべく英語を用い、英独仏露語などの混用をさける。原つづりが文頭にきた場合には、最初の文字を大文字にし、文中にある場合には全部小文字とする。ただし、人名は頭文字を大文字とし、また略号を説明する場合には、たとえば、**Local Thermodynamic Equilibrium (LTE)** のように略記される頭文字を大文字とし、ゴチック（またはボールド、以下同じ）とする。略記される文字の一部が頭文字でない場合には、**Vacuum Ultraviolet (VUV)** のように、略記される頭文字は大文字のゴチック、その他は小文字のままゴチックとする。

g) 原稿の各ページにかならず通しのページ・ナンバーを入れておくこと。

### 2.5.2 項目のわけ方

a) 論文はいくつかの項目にわけると。項目のわけ方は、大項目を 1., 2., 3., …, 中項目を 2.1, 2.2, 2.3, … 小項目を 2.1.1, 2.1.2, 2.1.3, … とする。さらに細かく項目をわけたい時は、a), b), c), … を用いる。

b) 大項目は、ゴチックで中央に書く。中項目は、ゴチックで左端を 1 字分あけて書く。小項目は、ゴチックで左端を 2 字分あけて書く。これらの場合、本文は行を改めて書く。a), b), c) 等は、左端を 3 字分あけて書きはじめ、その後 2 字分あけて、本文を続ける。

c) 本文を改行する場合は、原稿用紙の左端を 1 字分あけて、2 字目から書きはじめる。

2.5.3 字体の指定などが特に必要な場合には、右マージンに書き込むこと。

## 2.6 表、図、写真の作り方

2.6.1 表、図、写真には、それぞれ通し番号をつける。表は Table I, Table II, … とし、図と写真は一緒にして、Fig. 1, Fig. 2, … とする。

2.6.2 表、図、写真の挿入箇所を原稿用紙の右側の余白欄に、Fig. 1, Table III などのように赤字で指定する。（ソフトウェアの規格上欄外記入ができない場合には、指定しなくても構わない。）

2.6.3 表の説明は英文とし、表と共に書く。句読点に注意し、特に、表の見出し、説明の文章の最後のピリオドを忘れないようにする。

2.6.4 図、写真の説明はすべて英文とし、原稿の末尾にまとめて書く。句読点に注意し、特に、図、写真の見出し、説明の文章の最後のピリオドを忘れないようにする。

2.6.5 図は、大きさのいかんにかかわらず、図ごとに別のページ（用紙設定は、A4 に統一）に作成する。

2.6.7 掲載する表、図、写真の横幅は、シングルコラムの場合が 8 cm、ダブルコラムの場合が 16 cm であり、必要であれば、これ以外の横幅で印刷することもできる。縮尺を考慮して、文字の大きさ、線の太さなどに十分留意すること。

2.6.8 図、写真の原稿の各ページには、Fig. 番号、著者名、刷り上がりの横幅を書き、必要に応じてその他の印刷の指定を記入する。原稿がカラーの場合は、印刷がカラーかモノクロかを指定する。その際、これらの指定が図や写真に重ならないように注意する。

## 2.7 文献の書き方

2.7.1 文献は論文末尾にまとめて書く。本文中には通し番号で<sup>1,2)</sup>あるいは<sup>3-4)</sup>などと書く。番号は、本文中の順序にしたがってつける。文中の人名は特に必要な場合以外は、姓のみとし、文中で文献を引用する時は、文献 3（英文の場合は Ref. 3）というように書く。また、文献引用番号が文末にくる場合、和文では番号の後にピリオドをつけ、英文では番号の前にピリオドをつける。コンマの場合も同様とする。例参照のこと。

(例) 最近、レーザー応用技術が急速に進歩してきた<sup>2-6)</sup>。とくに……。

Laser application technique has recently made a big progress.<sup>2-6)</sup> Especially, ……。

2.7.2 引用文献は、雑誌などの場合、著者名（漢字を用いるときは姓・名の順、アルファベットを用いるときは名前のイニシャル・姓の順）、誌名、巻、ページ、年の順とする。誌名は立体、巻数はゴチックとする。著者名と誌名の間はコロンを入れる。雑誌名の省略法は、Physics Abstracts や Chemical Abstracts に準拠する。共著者が多数の場合でも文献欄では省略しない。

(例) 1) 山田太郎, 野原次郎: 分光研究 **52**, 145 (2003).

Taro Yamada and Jiro Nohara: J. Spectrosc. Soc. Jpn. **52**, 145 (2003).

2) D. Alpert: J. Appl. Phys. **24**, 860 (1953).

3) H. Klumb and H. Schwarz: Z. Phys. **122**, 418 (1944).

4) A. Johnson, M. Kato, and L. A. Lazarsfeld: J. Opt. Soc. Am. **53**, 1258 (1962).

5) J. Doe: Thesis, University of Chicago, U.S.A. (1960).

2.7.3 単行本などの場合、洋書名はイタリックとする。和書名は、イタリックにしない。

- (例) 1) G. Herzberg: *Atomic Spectra and Atomic Structure* (Dover, New York, 1944) p. 148.  
 2) R. W. Nicholls and A. L. Stewart: *Atomic and Molecular Processes*, ed. P. R. Pates (Academic Press, New York, 1962) p. 55.  
 3) 日本分光学会編：臨床検査と分光分析法（医学書院，東京，1970）p. 85.

### 3. 英文の「報文」および「装置と技術」の書き方

#### 3.1 一般的注意

3.1.1 原稿の各ページ下中央に必ず通しのページ・ナンバーを入れておくこと。

3.1.2 改行するときには、行のはじめを5字あける。ピリオドのあとは、2字あけて次の文章をタイプしはじめる。

#### 3.2 表題、著者名、研究機関および Synopsis

3.2.1 原稿第1ページには、表題、著者名、研究機関とその所在地の順に記す。また、日本語で表題、著者名、研究機関、その所在地を書く場合には、2行あけて続ける。日本語での表記は、必須ではない。書き方については、2.1を参照のこと。

3.2.2 原稿第2ページには、中央に Synopsis とゴシックで記し、次行から英文要旨（150語まで）を書く。英文要旨は、文頭をあげないで書き、途中改行してはならない。

#### 3.3 本文

##### 3.3.1 項目のわけ方

a) 項目のわけ方は2.5.2 a)を参照のこと。

b) 大項目は用紙の中央に位置するようにゴチックでタイプする。中項目は、左端からゴチックでタイプする。小項目は左端を2字分あけて3字目からイタリックでタイプする。a), b), c)は左端を3字あけて4字目から項目表題をタイプし、そのあと5字あけて本文をつづけてタイプする。

c) 大項目の書き方は表題の書き方と同じで、2.1.3 b)を参照のこと。

d) 中項目、小項目、および a), b), c)などの項目表題は、はじめの単語の頭文字のみ大文字とし、他はすべて小文字とする。

#### 3.4 表、図、写真の作り方

2.6に準ずる。

#### 3.5 文献の書き方

2.7に準ずる。

#### 3.6 英文の表現

英文は、論文の内容が誰にでも正確に理解されるように書かれていなければならない。表現が不適切な場合の原稿の取り扱いについては投稿規定4.5を参照のこと。

### 4. 「報文」および「装置と技術」以外の原稿の書き方

#### 4.1 総説、若手のショートレビュー、講座

4.1.1 Synopsis（英文、150語程度まで）と和文要旨（200字程度まで）をつける。

4.1.2 図・表の説明はすべて日本語とし、図・表中の文字等もできるかぎり日本語とする。

4.1.3 他は、和文報文の書き方（2.参照）にしたがって書くこと。

#### 4.2 分光便利帳、技術ノート

4.2.1 Synopsis（英文、80語程度まで）をつける。

4.2.2 ホームページ掲載用の和文要旨（100字程度まで）をつけることが望ましい。

4.2.3 図・表の説明はすべて日本語とし、図・表中の文字等もできるかぎり日本語とする。

4.2.4 他は、和文報文の書き方（2.参照）にしたがって書くこと。

#### 4.3 読者の広場、トピックス

4.3.1 図・表の説明はすべて日本語とし、図・表中の文字等もできるかぎり日本語とする。

4.3.2 他は、和文報文の書き方（2.5～2.7参照）にしたがって書くこと。

#### 4.4 博士論文紹介

4.4.1 はじめに表題、著者名、研究機関とその所在地、博士号授与機関、博士号の種類、博士号取得年月日を書く。

4.4.2 表題は、博士論文の表題と一致させること。

**4.4.3** 他は，報文の書き方にしたがって書くこと。

#### **4.5 新刊紹介**

はじめに題名（および巻号），著者名（または編集者名），出版社，同所在地，出版年度（何版），サイズ，頁数，価格，ISBNの順に記載する。最後に，（ ）内に紹介者の所属機関名と氏名を記入する。